

連載

27 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (63歳・内科)

アパートの2階が プールになったよ。



またまた緊急出動です。78歳男性で認知症の患者さんがトイレにおむつを詰まらせたらしく、木造アパートの2階が水浸し汚物だらけになり、階下の住人が激怒しているとのこと。

彼は2年前の初診の1カ月前に急性肺炎、脱水症で入院しました。軽い認知症で歩行不安定という病状でしたが、介護認定は要支援1でした。退院間近で地域連携室より在宅医療の依頼があったのですが、認定が可能か不明でした。ご自宅に訪問してみると、そこはゴミ屋敷で小便タンク状態にあり不潔そのものでした。至急清掃したところ、ネズミの死骸が数個あったそうです。日常自立度(A2,IIa)で病状

不安定な状態でしたが、まずは要介護1の再認定となり自宅での生活が始まったのです。

在宅医療を始めても相変わらず家中がトイレでした。本人は自宅での療養が希望でした。冷房のためのクーラー使用は問題ありませんが、暖房のための電気ストーブ使用は不安でした。発熱、転倒骨折の危険、悪性疾患の診断をしながらの在宅医療でした。

そんな中、今回の大事件が勃発してしまったのです。

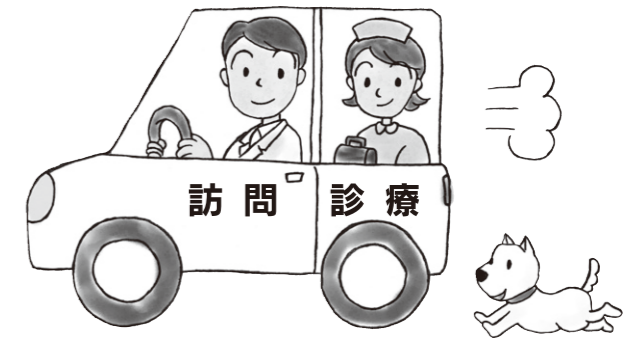
その後、施設に入所となりましたが、1カ月後天国へと旅立たれました。最期は要介護3認定でした。

元来病院嫌いの患者さんもうらっしゃいます。今回も当院での診察により初めて認知症と脳梗塞、脳腫瘍の診断ができました。そして転倒骨折、心(呼吸)不全と病状悪化しましたが十分な対応ができました。

介護・看護・医療との密な連携により、2年間にわたる自宅での療養となりました。その後、施設での生活となりましたが、点滴静注補液、在宅酸素(HOT)を使用していたため苦しみのない最期を看取れました。

当然ながら看取りの仕方は、ご本人(あるいは後見人)が決定するということは、言うまでもありません。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>